



# 令和4年 帯広市は記念の年を迎えます 帯広市開拓140年・市制施行90年

節目の年を市民の皆さんと慶祝し、帯広市の歴史を振り返ります。

問い合わせ 総務課（市庁舎5階、☎65・4100）

現旧市役所庁舎  
（平成4年6月撮影）

## ■ 明治16年、晩成社が帯広に入植

明治16年（1883年）の春、静岡県松崎町出身の依田勉三ら13戸27人の民間開拓団「晩成社」の一行が帯広に入植し、この地の開拓が本格化しました。令和4年、この開拓の年から140年を迎えます。

未開の原野を切り拓く開拓作業は、厳しい自然環境のもと、過酷なものでしたが、晩成社の入植以降、富山、岐阜などの移住者が続き、先人たちは多くの苦難を乗り越えながら、平原のまち帯広を築いていきました。

## ■ 昭和8年、帯広町から帯広市へ

大規模農業地帯の中心的都市として、大正期から昭和初期に一層の発展を遂げ、昭和8年（1933年）に市制を施行しました。令和4年は帯広市が誕生してから90年目の節目でもあります。

## ■ 各種記念事業を実施します

節目の年を記念し、令和4年1月～12月の期間に各種記念事業を実施する予定です。1～3月にはプレ事業として下記の事業を行います。4月以降の記念事業は詳細が決まり次第、市ホームページなどでお知らせします。

### プレ事業の一部を紹介します

#### ◆ 第59回おびひろ氷まつり

大雪像や氷の彫刻が並ぶ帯広の冬を彩る大イベント。  
 日 1月28日(金)～30日(日) 場 緑ヶ丘公園（緑ヶ丘2）

#### ◆ 第18回新人演奏会

十勝管内出身・在住の新進音楽家による演奏会。  
 日 2月13日(日)、14時開演 場 市民文化ホール（西5南11）

## 市民が描く 未来へのメッセージ



私が住んでいる家のまわりには、自然がいっぱいあって、外に出ている昆虫や植物を見つけるのがとても楽しいです。これからも帯広市のきれいな自然を大切にしていきたいです。

谷川歩さん、春希くん

2001年から帯広駅前にあるハルニレの木にイルミネーションを設置し、冬のまちなかを明るく照らしています。コロナで大変な状況が続いていますが、活気と希望に満ちあふれたまちなかが戻ってきてほしいと願っています。



十勝電気工事協同組合の皆さん



帯広市統計協議会の皆さん

帯広市統計協議会では、帯広市の統計調査を円滑に進めるため、各種研修や親睦事業を行っています。高齢の会員も多く所属していますが、皆、元気に活動しています。これからも協議会活動を生きがいにしながら元気に活動していきたいです。

## 百年記念館の秘蔵写真から振り返る 「帯広市の歴史」



昭和8年（1933年）  
帯広市誕生

帯広市が誕生した昭和8年に大通から広小路を撮影した写真で、奥に昭和5年建造の藤丸デパートが見えます。当時の市の人口は、3万2000人程でした。



昭和32年（1957年）  
川西村・大正村との合併

帯広市と川西村、大正村との合併を記念するパレードの写真です。この合併を機に、帯広市は近代的な田園都市として発展していきます。



昭和45年（1970年）  
緑ヶ丘公園で氷まつり初開催

第1回の氷まつりは帯広小学校内（現中央公園）で開催され、以降、中心部で開催していましたが、来場者の増加で会場が手狭になったことから、この年より緑ヶ丘公園を会場としました。



昭和60年（1985年）  
帯広の森スケートリンクオープン

昭和50年代初めから、国体誘致をきっかけに帯広の森にスポーツ施設を集約する案が浮上り、昭和60年代以降多くのスポーツ施設が建設されました。



平成8年（1996年）  
駅南から見た帯広駅と鉄道高架

平成に入ってから、駅南エリアに大型商業施設や、とかちプラザなどが建設され、市街地の再整備が進み帯広の顔である駅周辺の姿が一新されました。左奥に見えるのは旧帯広駅です。